

第4回 熊野川懇談会 議事骨子

開催日時 平成18年3月4日(土)13:30~16:30

開催場所 新宮商工会議所 大ホール

出席者: 委員12人(4名欠席)、河川管理者等7人、傍聴者30人

第4回熊野川懇談会を開催し、これまでの経過報告、新任委員の紹介、語る会での話題の報告の後、熊野川の治水、今後の進め方等について審議を行った。第4回の議事骨子は以下のようである。

1. 経過報告・新任委員紹介

- ・第3回懇談会以降に開催した、補充委員選考会、課題検討会、語る会等の経緯およびその内容について説明を行なった。また、竹中委員の後任として選考された古田皓委員(テレビ和歌山取締役報道局長)を紹介した。

2. 語る会での話題について

- ・懇談会では流域の人々が有する情報や意見を聞いて今後の河川整備に役立てるために、流域内の6箇所で「語る会」を開催した。その概要について説明し、各語る会で提供された話題等を紹介した。なお、語る会で提供された話題については、各会場ごとに作成した議事録を一冊にまとめ、閲覧資料に加えるとともに話題提供者に配布し、概要については、第4回懇談会のニュースレターに併せてまとめ一般に配布することとした。

3. 熊野川の治水

- ・河川管理者(紀南河川国道事務所)から熊野川の治水について説明を受け、その内容について質疑応答を行なった。委員から河川管理者への主な質問は以下の通りである。
 - ・雨量の大小と流量の大小の関係について説明してほしい。
 - ・現在の流量の確率規模はどのようなデータから導いたのか。
 - ・市田川と相野谷川で流量算定式が異なる理由を教えてください。
 - ・伊勢湾台風時の流量はどのように計測したのか。
 - ・ダム貯留能力については特に知りたい情報のため、解りやすく整理してほしい。
 - ・十津川流域と北山川流域で堆砂量に差が見られるが、この差についての見解を聞きたい。
 - ・ダム竣工からの経過年数と堆砂量の関係について猿谷ダムを含め整理してほしい。
 - ・明治22年の十津川大水害に対する河川管理者としての見解を教えてください。洪水の歴史を基に科学的に検討することも必要ではないか。
 - ・現在の流量はダムに助けられている。本当にこの計画流量でよいのかまとめてほしい。
 - ・年平均降雨量について、地球温暖化の観点で検証したい。地域単位と流域全体での降雨量の経年変化はどのようなものか。
 - ・治水面を考える際には、自然の保水力や環境維持の観点も含めた全体像をつかむ努力が必要。

4. その他

(今後の進め方)

- ・今後の進め方について審議を行なった。委員からの主な提案は以下の通りである。
 - ・専門的な議論を行なう際には専門部会を開催し効率的に進めるべきである。
 - ・管理者から熊野川の説明を一通り受け、その後に検討会等の対応を考えるのがよい。

(傍聴者からの主な意見)

- ・土砂投入による水質浄化や、十津川上流の堆積土砂を七里御浜の海岸侵食対策に活用する方策は実現性があるのか教えてください。(河川管理者への質問として)